

令和6年度 農福連携の取組事例集



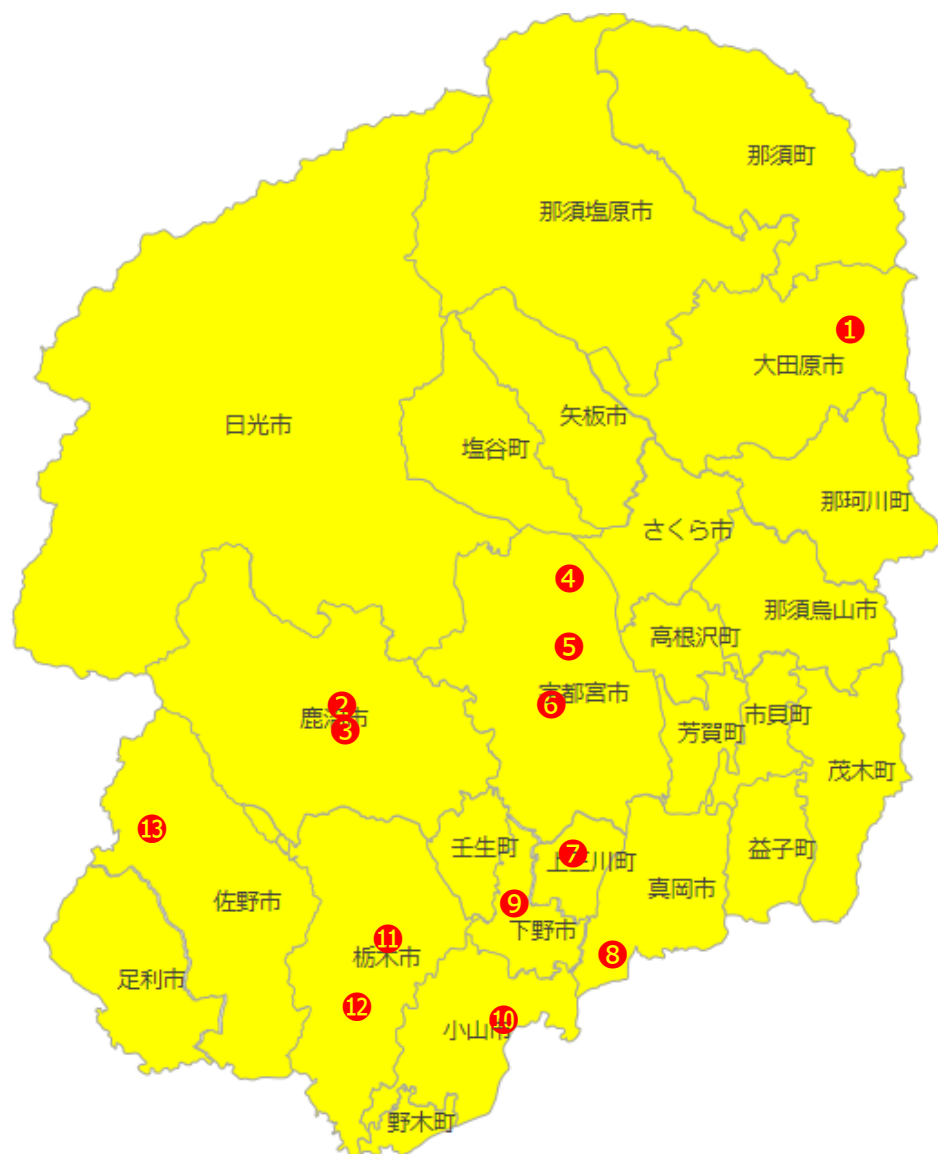
関東農政局栃木県拠点
令和7年3月

関東農政局栃木県拠点では、インターネット、新聞、意見交換者等からの情報により、農福連携の取組者を随時把握し、リストに整理しています。

本事例集は、農福連携リストに基づき、令和6年度に意見交換を行った内容を基に作成したものです。

- 1 (一社) 無邪気 就労継続支援施設ポラリス (大田原市)
- 2 生きいきこっとな村 (鹿沼市)
- 3 NPO法人福聚会 わたの実 (鹿沼市)
- 4 (福) 恵友会 ひびき (宇都宮市)
- 5 (福) 河内四つ葉会 グーフォ・かわち (宇都宮市)
- 6 (株) ジェイアンドエル リンク (宇都宮市)
- 7 下野きのこファーム (上三川町)
- 8 (福) 飛山の里福祉会 ハート二宮 (真岡市)
- 9 (福) はくつる会 工房つばさ (下野市)
- 10 (福) 洗心会 サンフラワーワークセンター (小山市)
- 11 (福) 共育会 障がい福祉サービス事業所Honu (栃木市)
- 12 (福) 天成会 すまいるわーく桜 (栃木市)
- 13 (株) Green Sustainable Agriculture (佐野市)

令和6年度農福連携の取組事例マップ



- 1 (一社) 無邪気 就労継続支援施設ポラリス (大田原市)
- 2 生きいきこっとな村 (鹿沼市)
- 3 NPO法人福聚会 わたの実 (鹿沼市)
- 4 (福) 恵友会 ひびき (宇都宮市)
- 5 (福) 河内四つ葉会 グーフォ・かわち (宇都宮市)
- 6 (株) ジェイアンドエル リンク (宇都宮市)
- 7 下野きのこファーム (上三川町)
- 8 (福) 飛山の里福祉会 ハート二宮 (真岡市)
- 9 (福) はくつる会 工房つばさ (下野市)
- 10 (福) 洗心会 サンフラワーワークセンター (小山市)
- 11 (福) 共育会 障がい福祉サービス事業所Honu (栃木市)
- 12 (福) 天成会 すまいるわーく桜 (栃木市)
- 13 (株) Green Sustainable Agriculture (佐野市)

1 (一社) 無邪気 就労継続支援施設ポラリス (大田原市)

基本情報

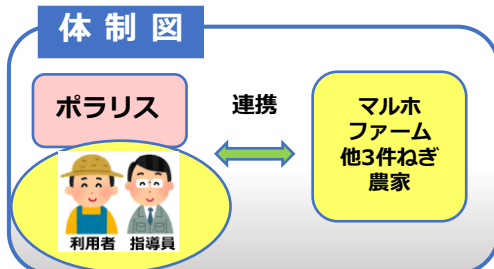
- 施設種類：就労継続支援A型事業所
- 従業員数：9名（農福連携作業支援員5名）
- 利用者：13名（定員20名）
- 農福連携における主な作業：収穫したネギの選別、調整、箱詰め。畑等の除草作業



経緯

○地域課題である地域の担い手不足、労働力不足が特に地方の農業において影響が大きい状況であり、その対策と、地域農業を未来に継承するために農業を中心とし、地域農家に直接連携する就労継続支援施設を設立した。農業のスキル取得向上のためグループの農業法人も後に協業している。

体制図



取組内容

- 作業内容：ねぎの選別、調整、箱詰め作業、除草作業等
- 作業時期等：通年(基本月曜～金曜日)
- 作業時間：夏場：7:30～13:30(1時間休憩含む)、冬場：8:30～14:30(1時間休憩含む)
- 賃金：栃木県の最低賃金

取組の特徴・メリット等

- 利用者が多数のひととの接点ができ、気持ちが外へ向くようになり、家から出られるようになった。
- 連携農家は利用者のことをよく理解しており、夏場の屋外での作業などは気を遣っていただいている。

課題や改善点

- 農業者が障がい者のことをよく理解してもらえず、農福連携を受けることが難しい場合がある。
- 農福連携の依頼があるが、作業できる人員（利用者）の確保、農業スキルの向上が追い付かない状況である。

今後の展望

- 地域の農業者等の人手不足の手助けになるように継続すること。
- 定員までの利用者を確保し、農業スキルの向上を図っていきたい。

2 活きいきこっとな村 (鹿沼市)

基本情報

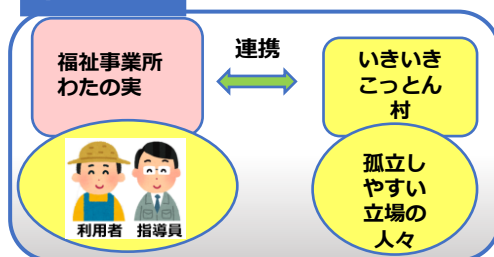
- 従業員：約5名(ボランティア者)
- 利用者：6名(ほか支援者2名)
- 作付作物：じゃがいも、里芋、ナス、キャベツ、オクラ、ホウレンソウ、ネギ等(約1.2ha(うち一部ほうき草を栽培) 野菜は直売所や個人への販売、ほうき草は全量ほうきの原料として販売
- 就労継続支援事業所「わたの実」と連携



経緯

○地区内で障害を抱える母親から、親子で孤立したことがあり、寂しい思いをしたことがあると相談があった。また、その一方では一人暮らしの老婦人が畑の管理に困っていた。このため、この親子が畑で農業をしてはどうかとマッチングの発想をしたのがきっかけ。

体制図



取組内容

- 作業期間・作業時間：通年 9:30～15:00(昼食、休憩時間あり)
(天候により、室内の清掃等別作業を行う)
- 工賃：時給200円程度、平均月額約20,000円程度、①基本給200円/1時間

取組の特徴・メリット等

- 地域住民の有志が集まって、「活きいきこっとな村」を運営しており、利用者の居場所づくりを第一に考え、社会復帰に向けて農作業を行っている。
- 自然豊かな農場での作業は、精神的にリラックスでき、安心して作業を行っている。
- 生活困窮者就労訓練事業の認定を受け、直ぐに一般企業で働くことが難しい方に中間的就労を実施している。
- 木陰での休憩では、農家等の手作りのお菓子を食べながら、和気あいあいとした雰囲気である。

課題や改善点

- 利用者の個人情報が外部に漏れていたことがあった。このため、活きいきこっとな村のルールを徹底した結果、個人情報が守られるようになった。

今後の展望

- 将来的には、収穫した野菜を活用して、総菜等の加工部門を立ち上げて、地域の独居高齢者等への食事を提供できればと考えている。
- 引き続き障がい者の就労の場をつくりながら、孤立しやすい立場の人々の居場所を作っていきたい。

3

NPO法人福聚会わたの実 （鹿沼市）

基 本 情 報

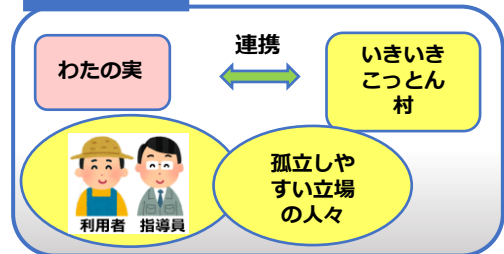
- 施設種類：就労継続支援B型事業所（わたの実）
- 従業員数：約7名（農福連携を実施している事業所従業員は3名）
- 利用者：15名（農作業従事は5,6名）
- 作付作物：じゃがいも、里芋、ナス、キャベツ、オクラ、ホウレンソウ、ネギ等（約1.2ha（うち一部ほうき草を栽培）野菜は直売所や個人への販売、ほうき草は全量ほうきの原料として販売



経 緯

- もともと同法人が高齢者等のディサービスを行っており、そこから障がい者や障がい者に認定されない人の受け皿として、活動を開始。活動の一つとして、市民団体活いきこっとな村で農業を行うこととなった。

体 制 図



取 組 内 容

- 作業内容：野菜の定植、播種、収穫、ほうき草の栽培、除草作業等（天候により、室内の清掃など別作業を行う）
- 作業時期等：通年
- 作業時間：9：30～15：00（昼食、休憩時間あり）
- 工賃：時給200円程度、平均月額約20,000円程度、基本給200円/1時間

取組の特徴・メリット等

- 利用者の居場所づくりを主に考えており、地域の農業者等は在籍している「活いきこっとな村」での農作業をおこなっている。
- 自然豊かな農場での作業は、精神的にリラックスでき、安心して作業を行っている。
- 生活困窮者就労訓練事業の認定を受け、直ぐに一般企業で働くことが難しい方に中間的就労を実施している。
- 木陰での休憩では、農家等の手作りのお菓子を食べながら、和気あいあいとした雰囲気である。

課 題 や 改 善 点

- 利用者等の情報がほかのところで世間話しの中で話されているようで、巡り巡ってこちらにも伝わってくることもある。利用者等の個人情報保護ということに関係者等に理解してもらうことに苦労している。

今 後 の 展 望

- 作った野菜を活用して、総菜等の加工部門を立ち上げて、地域の独居高齢者等への食事を提供できればと考えている。
- 引き続き障がい者の就労の場をつくりながら、孤立しやすい立場の人々の居場所を作っていきたい。

4 社会福祉法人 恵友会 ひびき（宇都宮市）

基本情報

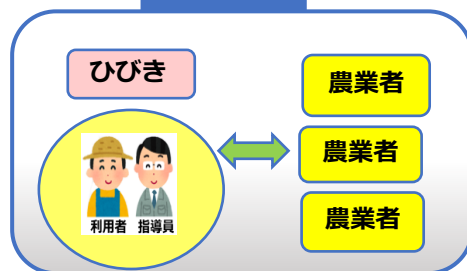
- 施設種類：就労継続支援B型事業所・生活介護
- 従業員数：10名（うち農福連携指導員4～5名）
- 利用者：50名（うち農福連携の従事者は10～12名）
- 農作業の受託：とうがらし、ナス、ニンジンなどの収穫、草むしり、石拾い、マルチはがし等
- 農作業以外の作業内容(8割)
米粉パン製造販売、クリーニング、内職等



経緯

○令和元年に、県から「生産者が農福連携を行う福祉施設を探しているが取り組んでみないか。」との話を受け、農福連携を開始した。現在は、開始当初の生産者を含め、5人の生産者と農福連携を行っている。

体制図



取組内容

- 作業内容：とうがらしの収穫、ナス収穫、ニンジン収穫、玉ねぎ収穫、除草、石拾い、芋の選別、マルチはがしなど
- 作業時期等：通年
- 作業時間：1日4時間（10:00～12:00、13:00～15:00）、基本は週5日
- 工賃：月平均31,511円程度（農作業を含む全ての作業一人当たり）

取組の特徴・メリット等

- 利用者の取り組める内容を見極め、簡単な収穫作業から難しい芋の選別やマルチはがしまでをも取り組んでいる。近年は連携農家からの草むしりや石拾いなどの作業も請け負っている。
- 施設外就労は屋内での内職作業と比べると、高い工賃を確保することができ、利用者にとってやりがいと楽しみを同時に得ている。

課題や改善点

- 夏期の野外作業は、熱中症にならないよう控えている。
- 利用者の調子に波があるため、指導員が様子を見極めることが重要である。
- 近年、就労継続支援B型事業所の開設が多いため、入所者が少なくなっている。そのため農福連携への人数確保が難しくなっている。

今後の展望

- 利用者によっては外での農作業を楽しみにしている。そのためにも、農福連携の取り組みを拡大し、地域内の活性化に貢献していきたい。

5（福）河内四つ葉会グーフォ・かわち（宇都宮市）

基本情報

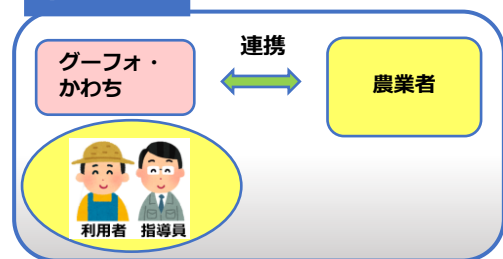
- 施設種類：障害福祉サービス事業所（多機能型）就労継続支援B型、生活介護型
- 従業員数：18名（農福連携を実施している事業所従業員は4名）
- 利用者：B型15名、生活介護25名
- 作付作物：じゃがいも、ミニトマト、さつまいも、人参、大根、花苗等（約30a）ブルーベリー（30a）



経緯

○知人から、果樹（柿、梅）の下草刈りの作業について、相談を受けたことがきっかけで、現在では、剪定、収穫作業も行っており、加えて、今年度から、水稻及び大豆の栽培にも取り組んでいる。

体制図



取組内容

- 作業内容：果樹（柿、梅）の下草刈り、剪定、選定枝収集、除草作業、水稻の生産、大豆の生産等（天候により変更あり）
- 作業時期等：通年
- 作業時間：基本午後（13：00～15：30（休憩時間あり）、暑さ対策で変更あり
- 工賃：月額平均約22,700円程度

取組の特徴・メリット等

- そもそも外に出掛けることが好きな利用者が多く、外での作業に喜びを感じている。
- 加えて、外での作業は、活躍できているという喜びにも繋がっている。
- 連携先農家での下草刈り作業には、機械（ハンマーナイフモア）を使用しており、機械を扱える（扱えた）喜びや自信にもなっている。

課題や改善点

- 近年の猛暑下における農作業を心配や不安視する保護者に対する配慮が必要となっており、利用者本人の作業意欲の尊重と保護者への不安払しょくに努めている。
- 作業については、職員が十分に作業内容を理解し、わかりやすく伝えることが重要であり、利用者の個性を把握するように努めることが重要である。

今後の展望

- 当面は、現在の連携先農家において、作業内容（協力度合い）の充実を図っていききたい。
- 利用者の喜ぶ姿、やりがい、生きがいを考えると、引き続き、農福連携による外での作業を続けていきたい。

6 (株)ジェイアンドエル リンク (宇都宮市)

基本情報

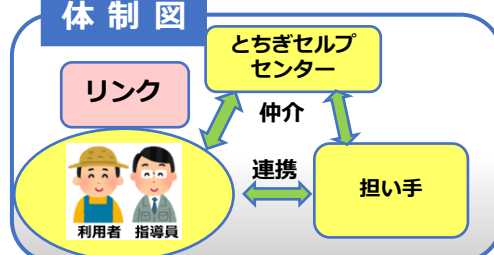
- 施設種類：就労継続支援AB型事業所（リンク）
- 従業員数：約18名（農福連携を実施している事業所従業員は6名）
- 利用者：36名（農作業従事はB型30名）
- 作付作物：サツマイモ（約30a）



経緯

○これまで請負作業をメインとして行ってきましたが、利用者が増えてきたこともあり、拡大の検討をしていた。とちぎセルフセンターから、地元農家の人手不足を解消しながら、業務拡大を図りませんかとお話をいただいたのが農福連携の始まり。その後、自分たちで畑を管理し収穫物の売上げを利用者に還元することになった。

体制図



取組内容

- 作業内容：サツマイモの定植のためのマルチ張りから除草・収穫まで作業する。（連携農家が事前に苗の準備や耕起作業を行っている）
- 作業時期等：5月中旬から11月上旬（実働日数15日）
- 作業時間：10：00～12：00、13：00～15：00（1日4時間）
- 工賃：時給500円

取組の特徴・メリット等

- サツマイモを石焼き芋などに加工し、直売所やイベント等で販売している。また、地域の子供へ無償提供をしており、直接子供たちの喜ぶ姿を見てやりがいを感じている。
- 製造した商品は家族や取引先などへ贈答し、自分たちの仕事の誇りとなっている。

課題や改善点

- 障がい者だから、低賃金で雇えるという考えは見直し、社会の大切な人材であるということを理解して取り組んでいる。
- 障害に合わせた作業分担や説明など工夫次第で、多くの仕事を任せることができる。

今後の展望

- 石焼き冷やし芋を製造したことで保存して販売できるようになった。今後は、作付農地の規模拡大を図るとともに新たな障害者を積極的に受け入れ、より社会に貢献していきたい。

7 下野きのこファーム（上三川町）

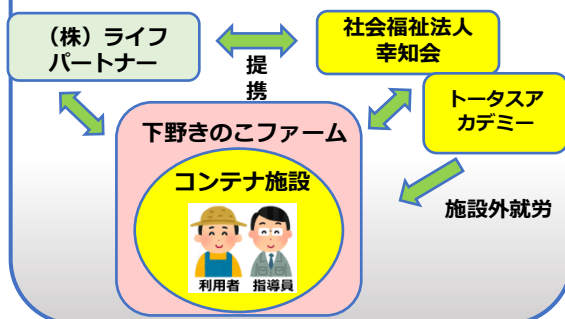
基本情報

- 従業員数：7名
- 利用者：14名
- 社会福祉法人幸知会（上三川町）と（株）ライフパートナー（下野市）が提携し、「下野きのこファーム」を2022年に設立。幸知会運営の就労継続支援B型事業所「トータスアカデミー」の利用者が、コンテナ10台できくらげ菌床栽培を実施。



体制図

（株）ライフパートナーと社会福祉法人幸知会が提携し、下野きのこファームを共同で運営



経緯

○就労継続支援事業所（トータスアカデミー）において新たな就労作業を模索していた中で、幸知会事務長が「きくらげコンテナ栽培」を見つけた。作業内容が障害を持つ利用者に適していること、通年で仕事が確保できることから、福祉関連事業者の（株）ライフパートナーと連携し、きくらげ栽培での農福連携を開始した。

取組内容

- 作業内容：きくらげの栽培に係る作業全般（栽培管理・収穫等）
出荷作業（収穫後のきくらげの洗浄・カット作業）
- 作業時期等：通年
- 作業時間：5 h/日、基本は週5日
- 工賃：月平均21,000円程度（一人当たり、きくらげ栽培以外の利用者も含む幸知会平均）
- 販路：県内スーパー（ヨークベニマル・オータニ）、直売所（道の駅・あぜみち）、卸売、ネット販売
- きくらげは生及び乾燥に加え、佃煮に加工して販売。出荷準備（ラベル貼り等）及び佃煮への加工は就労継続支援事業所（トータスアカデミー）で内職作業に取り組む利用者が実施。

取組の特徴・メリット等

- きくらげ菌床栽培を行うコンテナ（10台）にはI C T設備を設置し、適切な温度・湿度管理を容易に行えるようにしている。
- 就労継続支援事業所において、通年の作業が確保可能であり、工賃にも反映させることができる。また、内職作業等と比べると難しい作業内容であり、一般就労やA型事業所への移行に向けて有意義な就労作業を行うことができる。
- 利用者が経験を積むとともにやりがいを感じるようになり、作業に対し前向きに取り組むように変化している。

課題や改善点

- 菌床の状況等によって収量が異なるため、安定した収量の確保に苦慮している。
- コンテナの電気代が高騰し大きな負担となっており、対策として太陽光パネルをコンテナ上部に設置した。

今後の展望

- 受入可能人数や職員体制の面から、当面は現在の規模での取組を継続していく予定。今後は、収量や品質の安定化に取り組み、増益を目指していきたい。

8

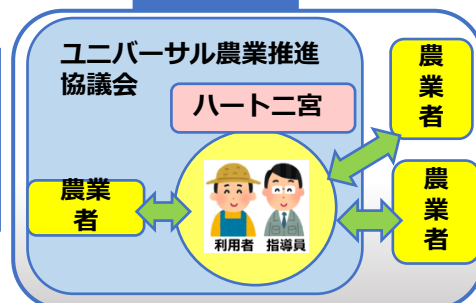
社会福祉法人 飛山の里福社会 ハート二宮（真岡市）

基本情報

- 施設種類：就労継続支援B型事業所・生活介護
- 従業員数：24名（うち農福連携指導員4～5名）
- 利用者：61名（うち農福連携の従事者は8名程度）
- ユニバーサル農業推進協議会会員
- 農作業の受託(約3割)：イチゴに関わる作業が大半を占める。
- 農作業以外の作業内容(約7割)パン製造販売、除草作業、内職等



体制図



経緯

- 平成15年に開設し、平成27年にユニバーサル農業推進協議会に加盟した。そのころからイチゴ農家と連携するようになり、現在は11件のイチゴ農家と連携を行っている。

取組内容

- 作業内容：イチゴの箱折り・イチゴの育苗ポット等の洗浄、タマネギの収穫、除草、石拾いなど。
- 作業時期等：通年
- 作業時間：1日3.5時間（10:00～12:00、13:00～14:30）、基本は週5日
- 工賃：月平均21,000円程度（農作業を含む全ての作業一人当たり）

取組の特徴・メリット等

- イチゴ農家から使用した育苗ポットなどを施設に搬入してもらい、施設内で洗浄作業することができる。天候に左右されずに計画的に作業ができるようになった。
- 利用者が農作業を実施したことによる変化は、やんわりとした農作業の疲れが利用者にとって良い達成感を生み出しており、自信がつくことにも繋がっている。また、地域の特産物であるイチゴに関わる仕事を農家と一緒にすることで、地域の一員である事を実感しており、働くことの楽しさや喜びを感じている。

課題や改善点

- 夏期の野外作業は、熱中症にならないよう特に注意を払っている。
- 利用者の調子に波があるため、指導員が様子を見極めることが重要である。
- 通所施設であるため、作業時間に制限があり農家側との調整が必要である。

今後の展望

- 将来は就労支援の部門を生活介護の部門のある施設(旧小学校跡)に統合して、効率的な運営に努めていきたい。また、農業者との連携を綿密にし、地域内の活性化にさらに貢献していきたい。

9 社会福祉法人はくつる会 工房つばさ（下野市）

基本情報

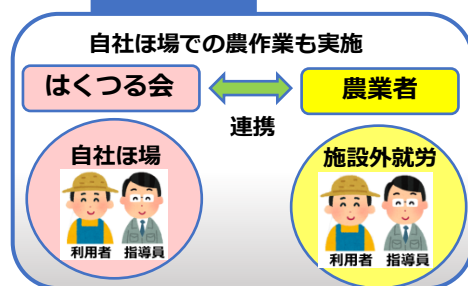
○施設種類：就労継続支援B型事業所
○従業員数：17名（うち農福連携指導員7名）
○利用者：38名（うち農福連携の従事者は16名）
○作付面積：約80a（借地）
○販路：大手スーパー、直売所
○農作業以外の作業内容：
食品加工（漬物・餅・パン・煎餅製造）、軽作業
（野菜等の袋詰め・文房具の梱包・箱折等）



経緯

○2002年より法人借地のほ場で農作業を開始した。
○2018年より、A農家からの営業を受け、施設外就労での農福連携を開始した。販路開拓や農業機器の開発プロジェクトの指導を受けた後、現在の連携先であるB農家に自ら飛び込み営業を行い、現在まで実施している。

体制図



取組内容

○作業内容：（連携先農家）ピーマン（ハウス・通年栽培）の収穫等作業
（自社）野菜（多品目）の栽培作業全般、連携先農家の請負軽作業
○作業時期等：通年
○作業時間：（連携先農家）2h/日（週1日または2日）
（自社農地）5h/日（9:30～12:00（休憩15分）、13:00～15:30（〃）、基本は週5日）
○工賃：月平均28,873.8円（一人当たり、R5年度実績 ※新算定方式）

取組の特徴・メリット等

○農業者との連携を開始したことで、販路（大手スーパー・直売所）を紹介してもらうことができた。当初より自社農地でも農作業を行っていたが、販路がなく自家消費程度であった。大型販路が確保されたことで、大きく売上高を伸ばしている（H30年度：約500万円→R5年度：約1100万円（農業部門以外を含めた売上高））。栽培技術についても連携先農家から指導してもらっており、品質向上につながっている。野菜の袋詰め作業も連携先農家から受託し、他作業班の利用者に対しても通年の作業を確保することができた。
○補助事業を活用し機械取得を行うため、昨年6月に認定農業者の認定を受けた。

課題や改善点

○作業時間が日中の暑さが厳しい時間帯に限定されているため、利用者の体調管理が難しい。自ら不調を訴えることが難しい利用者もいるため、指導員がこまめに声掛けを行うようにしている。
○単純な収穫作業などは行えるが、生育具合を判断して行う作業は難しい利用者もいる。

今後の展望

○施設外就労については、現在の連携先農家と今後も継続していきたい。
○自社農地については、離農を考えている近隣農家から農地を引き受けてほしいという話が来ており、農地を借りて面積を拡大することを計画している。

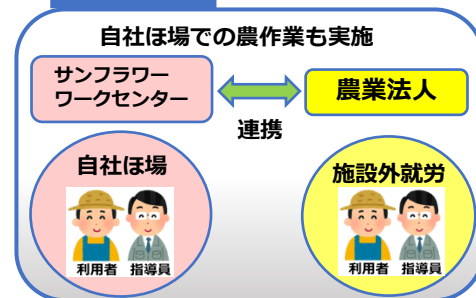
10 (福)洗心会 サンフラワーワークセンター (小山市)

基本情報

○施設種類：就労継続支援事業所（A型・B型）
○従業員数：10名（うち農福連携指導員4名）
○利用者：A型6名・B型27名
うち農福連携の従事者はB型10名
○作付面積：約70a
○作付作物：果樹（ブルーベリー・梅）・花き（マリーゴールド・パンジー）
○販路：直売所、自社レストラン、漬物屋、ケーキ屋
○農作業以外の作業内容：法人で経営するレストランでの調理・接客等業務、清掃・除草業務、軽作業（シール貼り・袋詰め作業）



体制図



経緯

○2012年に法人所有農地で農福連携を開始。2020年頃、市内の農業法人において施設外就労の農福連携を開始。現在、市内2つの農業法人と連携し、農福連携を実施している。

取組内容

○作業内容：【連携先農業法人A】ネギ栽培ほ場の除草・収穫補助作業
【連携先農業法人B】野菜（ナス・ショウガ・サツマイモ等）の栽培作業全般
【自社農地】果樹・花きの栽培作業全般、養蜂の補助業務
○作業時期等：通年
○作業時間：4h/日（週4日または週5日 派遣先・時期によって異なる）
○工賃：月平均20,000円（農作業に携わる利用者一人当たり）

取組の特徴・メリット等

○事業所の経営面では、大規模な農業法人と継続的に連携することができており、安定的な仕事の確保・収入増加につながっている。
○利用者にとっては、連携先において必要とされる体験をすることや、農業法人の職員と共に仕事することで刺激を受け、自信を持つようになっている。特に、サツマイモ栽培については、焼き芋の販売も利用者が行っており、自分たちで栽培した作物を加工・販売することでやりがいにつながっている。

課題や改善点

○農作業を指導できる職員の確保が難しい状況である。施設指導員が農作業の経験がないため、作業方法について初歩から勉強しながら指導を行っている。
○A型で雇用する場合、最低賃金を支払う必要があるが、それに見合う働きができる利用者を確保することが難しい。

今後の展望

○自社で生産した農産物について販路を拡大し、農業部門としての収益の向上を目指していきたい。
○昨年、離農した農業者から水田を購入した。今年から水稻の作付に取り組んでいく予定である。

11 (福) 共育会 障がい福祉サービス事業所Honu (栃木市)

基本情報

- 施設種類：就労継続支援B型事業所
- 従業員数：7名（うち農福連携指導員4～5名）
- 利用者：13名（うち農福連携の従事者は7～8名）
- 作付面積：約1ha（法人所有農地及び借地）
- 販路：近隣飲食店、卸売、直売、ふるさと納税返礼品
- 農作業以外の作業内容
縫製、食品加工（パン・プリン）、加工品の販売、藍染



経緯

- 就労継続支援事業所を開所する際、障害を持つ利用者が手に職を付けられる就労作業として、農業が適していると考えた。
- 将来の規模拡大・更なる雇用創出のため、今年3月に農業法人((株)Merry Farm)を設立した。

体制図

社会福祉法人が農業法人を設立

Honu

Merry Farm

自社ほ場



取組内容

- 作業内容：約10品目の栽培作業全般
（※栽培品目 マンゴー・イチジク・ビーツ・ブルーベリー・玉ねぎ・かんしょ・ばれいしょ・ニンニク・オリーブ・藍等）
- 作業時期等：通年
- 作業時間：1日5時間（9:30～12:00、13:00～15:30）、基本は週5日
- 工賃：月平均20,000円程度（一人当たり）

取組の特徴・メリット等

- 工賃の確保及び特色を出すため、マンゴー栽培に力を入れている。屋内での内職作業と比べると、高い工賃を確保することができている。
- 農薬に敏感な利用者もいるため、農薬を使用しない栽培を行い、安全に作業を行えるようにしている。
- 同一法人で経営する通信制高校・自立支援事業所においても、就労体験の一環として実施している。
- 自身が育てた農作物を取引先等に届ける際に感謝の言葉をもらうことで、自己肯定感・やりがいの向上につながっている。

課題や改善点

- 冬期のハウス燃料代が高騰しており、大きな負担となっている。
- 利用者の調子に波があるため、指導員が様子を見極めることが重要である。
- 近隣農家から積極的に農地を貸してもらえる状況であるが、規模拡大のためには指導員の確保や農業機械の充実が必要な状況である。

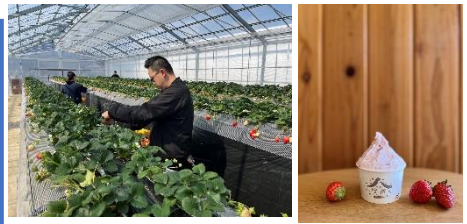
今後の展望

- 今年3月に農業法人を設立したところであり、引き続き規模拡大を行い、雇用の創出、一般就労への移行につなげていきたい。
- 農産物加工施設を新設し、加工作業を増やしていきたい。

12 社会福祉法人天成会 すまいるわーく桜 (栃木市)

基本情報

- 施設種類：就労継続支援B型事業所
- 従業員数：12名（うち農福連携指導員4名）
- 利用者：46名（うち農福連携の従事者は約10名）
- 作付面積：約20a（イチゴ、ブルーベリー）
- 販路：卸売、近隣飲食店、県外ホテル
- 農作業以外の作業内容
軽作業（ハンガーのリサイクル作業等）、
弁当・餃子の製造、ジェラート製造



体制図

福祉施設が自ら農業を実施

すまいるわーく桜

自社ほ場



経緯

- 就労継続支援事業所を設立する際に、賃金を高く確保する手段として、農業に取り組むのがよいのではないかと考えた。
- 2007年の開所時に農地を取得し、農福連携を開始した。現在、施設内にジェラート加工施設を設置し、製造・販売も実施している。

取組内容

- 作業内容：イチゴ・ブルーベリーの栽培作業全般
- 作業時期等：通年(栽培スケジュール上農作業がない時期もある)
- 作業時間：1日4時間（10:00～12:00、13:00～15:00）
- 工賃：月平均22,000円程度（一人当たり）

取組の特徴・メリット等

- 引きこもり状態であった利用者が、農作業に携わることで、表情も明るくなり、毎日通所できるようになった。イチゴ栽培は長期にわたるため責任感が生まれ、継続的に作業に携わることで利用者の成長につながっている。
- イチゴ栽培の一部で高設栽培を導入し、利用者の負担軽減に努めている。
- 指導員が働きやすい環境を確保し、定着してもらうことで円滑な運営につなげている。

課題や改善点

- 利用者はそれぞれ障害の程度や性格などにより、向き不向きが異なるため、農作業の適性を見極めるのが難しい。
- 市場流通の基準に適合した農産物を生産し、安定した販売力を確保する必要があると考えている。
- 以前は加工用トマトの栽培も行っていたが、7・8月が繁忙期のため、近年の猛暑下で利用者の健康管理上の課題があり、中止した。

今後の展望

- 今後、新たに就労継続支援事業所（B型）を開所予定であり、そこでも農福連携の取組を実施していく。
- 「農福」だけでなく「商工」とも連携した取組を行い、地域の活性化に貢献したい。

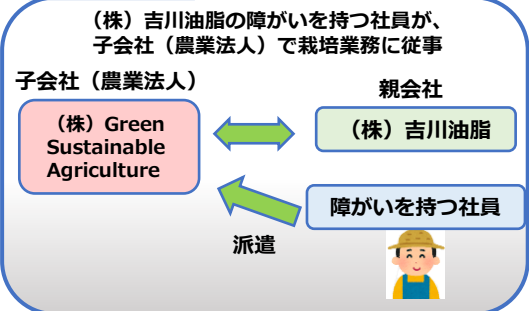
13 (株) Green Sustainable Agriculture (佐野市)

基本情報

- 従業員数：8名（単独2名のほか、親会社（株）吉川油脂の社員6名が勤務。うち、障がいを持つ社員3名）
- （株）吉川油脂（廃食用油の回収・リサイクル事業）が、2022年に農業部門子会社として設立。吉川油脂において16名の障がいを持つ社員を雇用しており、そのうち3名が（株）Green Sustainable Agricultureで栽培業務に従事。
- ビニールハウス（約6a）でミニトマトの温室水耕栽培を実施。ビニールハウスのボイラー燃料として、吉川油脂でリサイクルした廃食用油を利用し、リサイクルの「見える化」に取り組む。
- 吉川油脂として、栃木労働局の障害者雇用優良中小企業認定（もにす認定）を取得。



体制図



取組内容

- 作業内容：ミニトマト栽培全般の補助業務（栽培管理・収穫）
- 作業時期：9月～7月
- 作業時間：午前中（それ以外の時間帯は、（株）吉川油脂で業務を行う）
- 販路：県内外スーパー（イオン・ベルク・とりせん・イトーヨーカドー）、直売所（道の駅どまんなかたぬま・北の郷・JA足利直売所）、卸売、ネット販売

取組の特徴・メリット等

- （株）吉川油脂において、現在16名の障がいを持つ社員を雇用している。専用社員寮を設け、親がいない社員が就労しながら生活できる場所を提供している。
- 障がいを持つ社員のなかには工場業務よりも、栽培業務のような個々のペースで取り組む業務の方が適性がある者もいる。農業参入により、業務の幅が広がり、より適性にあった業務を提供できるようになった。
- ミニトマトの生育状況を見ながらの作業となるため、細やかな作業が出来るようになった。また、情操的にも良い影響があり、笑顔が多くなり、やりがいや働きがいにつながっていると感じられる。

課題や改善点

- 事故防止や適切な作業状況の把握・指導を行うため、一般の社員と障がいを持つ社員が共同で作業を行うこととしている。
- 農作業は専門的な作業の部分があることから、障がいを持つ社員でも分かりやすいマニュアル作成や指導方法の検討に取り組んでいきたい。

今後の展望

- 現時点では、農作業に取組みたいと考える社員が十分に働くことができる規模ではないため、希望者が十分に働ける規模に拡大していきたい。